

1 派遣期日 平成 27 年 10 月 1 日 (木)

2 研修先 埼玉県立越谷西特別支援学校
〒343-0855 埼玉県越谷市西新井850-1
<http://www.koshigayanishi-sh.spec.ed.jp/>

3 研修内容 自立活動に視点を置いた授業作り

本校では昨年度より課題研究のテーマを「自立活動の授業作り」として取り組んでおり、自立活動の概念や支援方法を模索しながら研究を推進しているところである。越谷西特別支援学校では、自立活動研究部を独立して立て、個別に抽出した自立活動の他にも、教科の中での自立活動、グループでの自立活動など本校に似た自立活動を行っている。そこでこれらの活動を実際に参観し、指導の在り方を学ぶ機会にしたいと考え、以下の4点を柱とし研修に臨んだ。

(1) 自立活動の授業の参観



【小1 ストレッチボールを使った自立の様子】

【小6 ケンステップを行う様子】

【中2 抽出自立の様子】

「様々な身体の使い方を体験しながら、自分の身体を感じ、意識して動かす。」「相手に合わせる。ルールを受け入れる。待つ。」「体幹を鍛える。対人関係とコミュニケーション。」等をねらいとした授業を行っていた。ストレッチボールやバランスボールを使った動きのある活動や、教師の発する音に合わせて動く等、ねらいや発達段階に合わせた授業だった。静かな音楽やリズムカルな音楽など活動にあったBGMが流れ、児童・生徒は落ち着いて活動に参加していた。

(2) 自立活動の年間指導計画と具体的な題材や教材教具について



【自立活動室前の教材の紹介】

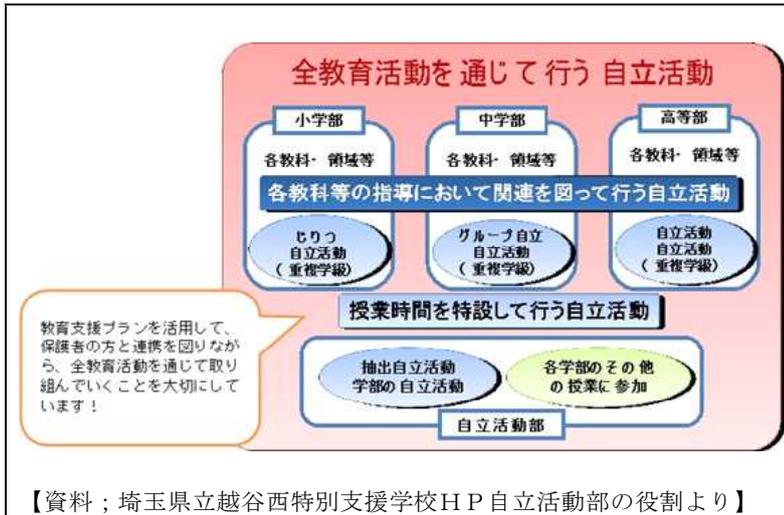


【自作教材】

グループごとの年間指導計画をいただいた(個別の指導計画については個人情報が多いため見せられないとのこと)。指導経過や反省等も記されている点が本校との違いであった。

自立活動室前には、具体的な使い方が示された教材の紹介が写真付きで掲示されており、使用しやすく整理されて置かれていた。自作教材も、共有できるように棚に保管されていた。

(3) 自立活動における指導支援の在り方について



【小学部】人とかかわる中で、発達の土台作りをしていく時期であり、障害特性を踏まえたスモールステップでの自立活動を行う。

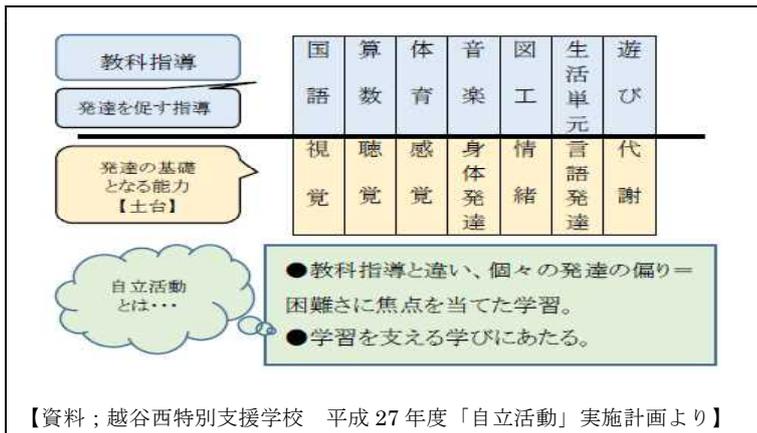
【中学部】周りの人の存在の中で、自分と向き合う力をつける時期であり、集団の中で理解や行動ができる力をつける自立活動を行う。

【高等部】将来に向けて自分らしさと生きる力を高める時期であり、「卒業後、何で困るか」「この力をつけさせたい」という視点での自立活動を行う。

【抽出自立】集団の中では対応や学習が難しく、抽出しての指導が必要かつ有効な児童生徒に対して、「困難さの根幹」の部分を見極め、「指導内容や方法を個々に合わせて変えながら」迫ることで、障害特性を踏まえた指導を模索し、個々のねらいを達成することを目指す。

個々の自立活動の視点を持ち、上記のようなねらいに応じた指導を全教育活動を通じて行っていた。

(4) 教科等との関連と自立活動の指導内容を踏まえた教育課程について



自立活動は個々の困難さに焦点を当てた学習で、「学習を支える学び」に当たる。

発達の基礎となる能力を土台とし、教科指導の中で発達を促していく。授業の中でのアプローチとして、教科・領域別指導の中の障害特性を踏まえた指導を、自立活動と教科指導が重なり合うように行っていく。

4 感想

今回の研修では、普段の授業の様子を参観させていただき、教師や児童・生徒の視線や動きを近くで見取ることができた。自立活動の授業を楽しみにしている児童・生徒と、障害の克服のために個に応じた用意周到に計画された授業を仕組んでいる先生方との息がぴったりと合っていることに感銘を受けた。そこで展開される授業は、私自身も一緒に参加したくなるような授業だった。埼玉県立越谷西特別支援学校は、担当教諭3名が指導・研修・啓発を行っており、自立活動室や自立活動準備室も整備された、ソフト面ハード面の両方が充実した学校であった。担当は、担任や保護者との連携も大切にしており、抽出自立を行う児童・生徒の指導の様子を毎時間ノートに記録して担任に渡し、学期に数回は保護者へ便りを出していると聞き、一人一人を大切にされた指導は、児童・生徒もその親も担当教諭を信頼して授業に取り組むことができているのだと感じられた。たくさんの資料や実践を見せていただいたことで、私自身の自立活動の授業作りの基盤を固められたように思う。

今後は、本校職員にも今回の研修で得られた知見を基に学んだことを伝達し、自己の研修を深めながら、課題研究を進めるに当たる本校の原動力としていきたい。